



展覧会開催のお知らせ

「今井祝雄 Retrospective—方形の時間」

Norio Imai Retrospective - TIME IN SQUARE



images: 《方形の時間》パフォーマンス、インスタレーション、動画(ビデオ)/1984

1970年代から作品に写真と映像を新たなメディアとして登場させた今井祝雄は、次第に『時間』表現に制作のテーマを移していきました。現像しないと確認できないフィルム写真、鏡像効果を見せるガラスのブラウン管、「時間の巻尺」としてのオープンリールのビデオテープなど、当時のメディアの物質的特性を活かし、そのシステムの中に表現者が身体的に介入し、イメージを重ねるパフォーマンスやインスタレーション、映像作品を続々と発表し、時間の可視化を試みました。

2015年秋より東京国立近代美術館にて開催された「Re: play 1972/2015」や本年2月よりロンドンのテート・モダンで開催される「Performing for the Camera」では、当時の写真・映像作品が展覧され、今井が取り組んできた表現方法と制作テーマの革新性が改めて評価されています。

1964年の初個展「17才の証言」で鮮烈なデビューを果たした今井は、前衛芸術家グループ「具体美術協会」に最年少メンバーとして迎えられ、同協会の「具体展」等への出展の他、当時盛んに開催されたアンデパンダンや公募展などにも積極的に参加しました。今井の制作最初期にあたる1960年代には、キャンバスに凹凸を持たせた「白」色の作品で、絵画—レリーフ—立体の境界を越える表現を拓き、1970年代には写真・映像作品へと更に関心を拡大しました。

本展は2012年の「Retrospective—17才～22才」、2014年の「Retrospective—影像と映像」に続く今井祝雄の回顧展第3弾となります。

[展覧会概要]

展覧会名： 今井祝雄 Retrospective—方形の時間

会 期： 2016年3月26日（土）～4月23日（土）*日・月 休廊

会 場： アートコートギャラリー 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間： 11:00～19:00（土曜日は～17:00）

[関連イベント] ※要予約、参加費無料

◆ パフォーマンスとレセプション：3月26日（土）

・公開パフォーマンス「方形の時間」——15:00～15:20

展覧会初日に1984年のパフォーマンスを再演。詳細は「見どころ」を参照ください。

・レセプション——15:30～17:00

◆ ビデオ上映と対談：4月16日（土）——15:00～17:00

・上映「時間の衣装」「On Air」「矩形の時間」等のダイジェスト(1978～1983年作品、約15分間)

・対談 三輪健仁氏(東京国立近代美術館主任研究員)×今井祝雄氏

主催：アートコートギャラリー（株式会社八木アートマネジメント） 協力：福本タダシ(Video Gram)

協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

お問い合わせ：アートコートギャラリー（八木・灰田）〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F
E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449



展覧会開催のお知らせ

「今井祝雄 Retrospective—方形の時間」

Norio Imai Retrospective - TIME IN SQUARE

展覧会の見どころ:

表題作《方形の時間》(1984/2016)は、パフォーマンスの再演やそれに連なるインスタレーションの再展示のために、オープンリールのビデオテープと録画再生機が不可欠です。今回は、製造停止となって久しいそれらの機材を入手できたことで再演・再展示が可能となりました。本展初日に実施される公開パフォーマンスは、4メートル四方に配置された等身大の観葉樹を今井がビデオテープで巻きつけていくものです。

——作家は撮影直後のビデオテープを手に持ち、観葉樹に巻きつけていく。そのビデオには一瞬の時間差でその直前の作家の行為が録画され、ビデオテープはリールに巻き取られることなく吐き出され、それを手に持った作家は観葉樹に巻きつける。それら一連の行為と記録が入れ子状に進行し、やがて四方に配された観葉樹に巻き付いたテープによる「方形」が出現する。

このパフォーマンスはその後、インスタレーション作品として展示されます。

本作は今井が取り組んだ『時間』表現の代表作のひとつです。

主な出展作: (予定)

インスタレーション1点 映像1点 写真24点 平面5点 立体1点 合計 32点

| インスタレーション |

《方形の時間》(1984/2016)——展覧会初日にパフォーマンスを再演(再制作)。

| 映像、写真 |

《八分の六拍子》(1981)——真っ暗なドーム空間の中を回り、観客にむかってストロボを発しながら撮影したパフォーマンス。映像と写真を展示する。

| 平面 |

《映像による素描》(1974)——映像を投影しながらトレーシングペーパーにインクで描画し、15秒毎に複写を7回繰り返した。複写(ブループリント)7枚とトレーシングペーパー1枚で構成。



《八分の六拍子》1981 より



《映像による素描》1974 より

※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

お問い合わせ：アートコートギャラリー（八木・灰田）〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F
E-mail: info@artcourtgallery.com URL: www.artcourtgallery.com TEL: 06-6354-5444 FAX: 06-6354-5449



今井祝雄 略年譜 —写真・映像作品の展覧を中心に

- 1946 大阪市生まれ
- 1964 個展「17才の証言」(ヌーナ画廊、大阪)
第14回具体美術展(高島屋、大阪)
- 1965 大阪市立工芸高校美術科洋画コースを卒業。
第15回具体美術展(グタイピナコテカ、大阪)
具体美術協会会員となる。1972年の解散まで、全ての具体美術展に出品。
- 1966 海上のゼロ(オレツ国際画廊、デン・ハーグ、オランダ)
白の空間(ギャラリー16、京都)
第10回シェル美術賞展(白木屋、東京/京都市美術館)1等賞受賞
現代美術の動向(国立近代美術館京都分館)
個展(グタイピナコテカ、大阪)
空間から環境へ(松屋、東京)
- 1967 「具体」グループ展(ハイデ・ヒルデブランド画廊、クラゲンフルト、オーストリア)
第5回パリ青年ビエンナーレ(パリ市立近代美術館)
第1回草月実験映画祭(草月会館ホール、東京/弥栄会館、京都)
- 1968 第8回現代日本美術展(東京都美術館/京都市美術館)
現代日本美術展—蛍光菊(ICA、ロンドン)
- 1970 具体グループによる展示(万国博みどり館、大阪)
第16回オーバーハウゼン国際短編映画祭(オーバーハウゼン、ドイツ)
- 1971 第10回現代日本美術展—人間と自然(東京都美術館/京都市美術館)
個展(ウォーカー画廊、東京)
- 1972 3人の心臓音による街頭イベント(御堂筋、大阪)
第7回ジャパン・アート・フェスティバル(メキシコ国立大学附属美術館、メキシコシティ/
アルゼンチン国立美術館、ブエノスアイレス)
- 1973 第8回ジャパン・アート・フェスティバル(リュブリアナ近代美術館、ユーゴスラビア/マンハイム市立美術館、ドイツ)
- 1974 インバクトアート・ビデオアート'74(ギャラリー・インバクト、ローザンヌ、スイス)
第11回日本国際美術展—複製、映像時代のリアリズム(東京都美術館)
- 1975 第10回ジャパン・アート・フェスティバル(国立ウエリントン美術館、ニュージーランド/ヴィクトリア州立美術館、
メルボルン/クイーンズランド州立美術館、ブリスベン)
国際オープン・エンカウンター・オン・ビデオ(エスパス・ピエール・カルダン、パリ)
- 1976 第11回ジャパン・アート・フェスティバル(上野の森美術館、東京/ブロードウェイ・デパート、ロサンゼルス/
ワシントン州立大学附属美術館、シアトル)
- 1977 第7回国際オープン・エンカウンター・オン・ビデオ(ミロ美術館、バルセロナ)
03 23 03 プロジェクトとイベント(モントリオール/カナダ国立ギャラリー、オタワ)
イメージのネットワーク(イメージフォーラム、東京)
- 1978 アンダーグラウンド・シネマから個人映画まで(東京都美術館)
ジャパン・ビデオアート・フェスティバル(CAYC、ブエノスアイレス)
国際ビデオアート TOKYO '78(草月会館、東京)
- 1979 毎日の自画像《デイリー・ポートレート》を開始。
自画像による個展(番画廊、大阪)
- 1980 ビデオ・ローマ '80(ローマ民俗美術館、イタリア)
個展「矩形の時間」(ギャラリーキタノサーカス、兵庫)
- 1981 ビデオによる個展(ザ・バンク、アムステルダム)
- 1982 個展「Videotape Performance」(ビデオギャラリー-SCAN、東京)
第4回シドニー・ビエンナーレ(ニューサウスウェールズ工科大学、シドニー)
個展「セルフポートレート」(中村画廊、大阪)
- 1983 現代美術における写真—1970年代の美術を中心として(東京国立近代美術館/京都国立近代美術館)
第12回モントリオール国際ニューシネマ・フェスティバル(モントリオールほか 2都市に巡回)
- 1984 AFI 国際フィルム・フェスティバル(AFI、ロサンゼルス)
- 1985 日本—未来のアヴァンギャルド(パラッツォ・トルシ、ジェノヴァ)
現代のセルフポートレート(埼玉県立近代美術館)
- 1986 ビデオカクテルIII(原美術館、東京)
- 1988 日本先端科技藝術展(台湾省立美術館、台中)
- 1989 河原温と同時代の美術 1966-1989(ICA 名古屋、愛知)
- 1990 オプティカルムービーの系譜(埼玉県立近代美術館)
ヨーロッパ・メディアアート・フェスティバル(オスナブリュック、ドイツ)
日本のビデオアート 80年代(ローマ日本文化会館ほか欧米を巡回)
ジャパニーズ・メディア - アート - ナウ(ハノーファー、ドイツ)
- 1992 日本のヴィデオ・アート特集—80年代編(世田谷美術館、東京)
フレームの美学—アニメーションの理論と実践(埼玉県立近代美術館)
現代日本の写真美術(ウォーカー・ヒルアートセンター、ソウル)
- 1994 戦後日本の前衛美術(横浜美術館、神奈川/グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク/
サンフランシスコ近代美術館 ~1995)
時間/美術—20世紀美術における時間の表現(滋賀県立近代美術館)
- 1997 〈私〉美術のすすめ—何故 WATAKUSHI は描かれたか(板橋区立美術館、東京)
個展「デイリー・ポートレートの四半世紀(夢創館、兵庫)
- 2006 ヴィデオアート・SCAN コレクション特集上映(川崎市市民ミュージアム、神奈川)
- 2007 ラディカル・コミュニケーション:日本のビデオアート 1968-1988(ゲティ・センター、ロサンゼルス)
- 2009 ヴァイタル・シグナル—日米初期ビデオアート(ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク/ボストン美術館/
ロサンゼルス・カウンティ美術館/横浜美術館/国立国際美術館、大阪 ほか ~2010)
- 2011 Nul=0—国際的文脈におけるオランダの前衛 1961-1966(スキューダム市立美術館、オランダ)
マスクド・ポートレート パートII(マリアン・ボエスキー・ギャラリー、ニューヨーク ~2012)
- 2012 「具体」ニッポンの前衛 18年の軌跡(国立新美術館、東京)
個展「Retrospective—17才から22才」(アートコートギャラリー、大阪)
- 2013 具体:素晴らしい遊び場所(グッゲンハイム美術館、ニューヨーク)
個展「白のイベント」(アクセル・ヴェルウォールト・ギャラリー、アントワープ)
- 2014 個展「白の遠近」(ギャラリー・リチャード、ニューヨーク)
1970年代の日本の写真におけるイメージと物質(マリアン・ボエスキー・ギャラリー、ニューヨーク)
個展「白からはじまる」(ユミコチバアソシエイツ・ビューイングルーム新宿、東京)
個展「Retrospective—映像と映像」(アートコートギャラリー、大阪)
- 2015 個展「Time Collection」(ユミコチバアソシエイツ・ビューイングルーム新宿、東京)
プロポジション(パラッツォ・フォルチュニー、ヴェニス)
個展「Norio IMAI, (Part I) Shadow of Memory / (Part II) White Event」(ギャラリー・リチャード・パリ)
- Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展、再演(東京国立近代美術館)
- 2016 Performing for the Camera(テート・モダン、ロンドン)